

旭川医科大学医師会会長

平田 哲 先生



平成27年7月1日に松野丈夫前会長の後任として、平田哲先生が新会長に就任されましたので、ご紹介いたします。

先生は昭和55年3月旭川医科大学を卒業後、旭川医科大学大学院医学研究科に進学し、昭和59年同大学院を修了しました。修了後は同大学第一外科に入局、平成8年第一外科講師、平成11年Yale大学外科に留学されました。帰国後、平成20年同大学病院手術部准教授、平成20年同教授に就任されています。平成23年旭川医科大学病院副院長（事故防止・安全問題担当）、そして平成27年旭川医科大学副学長（医療・地域医療担当）・病院長に就任されました。

会長就任にあたっては、「この地域の10年、20年先の医療の将来像を鑑みて、若い医師やスタッフの教育と地域貢献が最重要課題であることをあらためて肝に銘じ、病院運営を進めていきたい」と述べて

おられます。10年後には団塊の世代が後期高齢者となることから、医療・介護サービスの保障強化が求められ、今、各方面でその対応策が検討されています。先生はさらにその先を見据えた病院運営が必要であると考えていらっしゃるようです。

ご趣味はゴルフですが、お忙しいようで年に数回しか行っていないとのこと。また時間のあるときにはご自宅の庭の芝刈り（本当は雑草刈りとのこと）をこまめに行っているようです。

ご家族は、奥様と二人のお嬢様がいらっしゃいます。上のお嬢様が耳鼻科医で、下のお嬢様が薬剤師をされています。また、札幌医科大学前病院長の平田公一先生は先生のお兄様です。

会長就任後、とても忙しくなられたようですが、ご専門の乳腺外科診療は継続されています。学生時代にバレーボールで鍛えた体で、これからも診療、手術部教授の業務、そして旭川医科大学医師会長の業務をバリバリと進めていくと確信しています。今後ますますのご健勝、ご活躍をお祈りし、新会長のご紹介といたします。

旭川医科大学医師会
監事・北海道医報通信員 廣川 博之

お知らせ

日本脳炎の定期予防接種の実施について

◇地域保健部◇

本道における日本脳炎ワクチン接種については、昨今の地球温暖化をはじめ、進学や就職などさまざまな理由により道内外への移動の機会が増加していることなどを背景に、北海道感染症危機管理対策協議会においてもかねてから定期接種化の必要性について議論されてきたところであります。

当会と北海道小児科医会では、日本の将来を担う子どもたちを感染症から守るために北海道においても格差なく日本脳炎ワクチンが定期接種として実施されるよう北海道医報第1150号(平成26年7月1日付け)附録等を通じて署名活動を行いました。

このたび北海道感染症危機管理対策協議会からの報告書の検討結果等を踏まえ、本道においても日本脳炎の予防接種を行うことが適当であると判断し、平成28年度より予防接種法第5条第2項の規定に基づく区域指定を行わないこととなりました。医療関係者をはじめ道内外の住民からいただいた53,425筆の署名をもとに、北海道知事、北海道議会議長等に対して要望書を提出する等の一連の対応が定期接種化の実現に結びついたものと存じます。会員各位のご協力に厚く御礼申し上げます。

平成28年度より各市町村において日本脳炎の定期予防接種の実施が義務となりますが、円滑な実施に向け引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。